

< 仙台国税局長賞 >

## あたりまえのありがたさ

南会津町立田島中学校

3年 松田 歩

私は中学1年のときに本当の火事の恐怖を味わった。

6月のとある日曜日、私は土曜日が部活でつぶれてしまったので「今日は貴重な休日をのんびり過ごそう」と9時まで睡眠をとり、台所にいる母と祖母に朝の挨拶をしながら洗面所に向かった。冷たい水で顔を洗いながら外を見ていたときだった。突然「キャー」という母の叫び声が聞こえた。その時、私は祖父か祖母が倒れたのかと思い台所に様子を見に行った。しかし、母の叫び声の原因は違うものだった。なんと隣の家の小屋が燃えていたのだ。母は急いで兄や姉を起こし、みんなで家の中の物を蔵に移動させた。そうこうしている間に消防車が家の前に来た。それだけでなぜか私の心が安堵したのがわかった。火事の原因はタバコなどの火の不始末だったらしい。幸い私の家には被害はなかったが、火が出た小屋の私の家とは反対側にある家は、窓ガラスが割れるなどの被害があったらしい。その時の記憶は今でも鮮明に覚えている。

その2年後、中学3年生のときに私は租税教室に参加し、初めて消防車が税金のお陰で動かされていることを知った。そのとき見たのは「税金がなくなった社会」のアニメだったが、その中で火事起きたときには高額のお金を支払わなければ消防車を呼ぶことは出来ない。もし、その世界に私の家があったとしたらと想像するだけでも恐ろしいと思った。私はその日家に帰ってから「消防車や救急車は税金が無かったとしたらいくらなのか」ということをパソコンで調べてみた。出てきたのは救急車を頼んだときの金額で、1回あたり約4万

円という数字が出てきた。さらに、1日の出動回数を調べてみると、なんと1日平均1万6,397件も出動していることがわかった。それを1回を4万円として計算してみると6億5,588万円、つまり1日あたり約7億円の税金が使われているということがわかった。そして、私はそのページでもう一つの問題の存在を知った。それは「救急車をタクシー感覚や軽傷で呼ぶ人が増えている」ということだった。私はそこで一つの疑問を覚えた。「それがなかったらもっと多くの命を救うことができたのではないか」という疑問だった。しかしその疑問は次の瞬間確信に変わった。「そうだ。それがなければ今も生きていた人がたくさんいたはずだ」と。

人が救急車を呼ぶことが悪いことなわけではない。しかしその状況が本当に救急車を呼ぶべき状況か考えてから行動を起こして欲しい。救急車も消防車も無料なわけではないのだ。税金があるからたくさんの助かる命があるのだ。私は税金の大切さとあたりまえのありがたさを忘れないようにし、これからの毎日を過ごしていこうと思う。